

「やわらかな手」を読んで

「誰も排除しない。誰でも来られる家をつくる。」ということで惣万佳代子さんが富山型デイサービスを考え始めたのが、1992年。同僚の西村さんと富山赤十字病院の看護師を辞めて、スタートさせたのが1993年、41才の時だそうです。

人生、一番力が出せるころですね。でも、その時に、家族や友人に「無謀な計画だ」「体を壊す」「君たちは ばか、あほ、まぬけだ」と言われたそうです。それでもやらずにはおれないという思いは、「関節リウマチ」で50才の時に医師から「余命はあと半年」と宣告された母がいたからだと思います。

小学校4年生から母の介護が始まり、一般の人より早い時期に介護の厳しさを体験し、また看護の道に進んで、病院での介護を学び、自宅介護で十数年間家族に囲まれて人生の終章を過ごした母の姿を見て、これだと確信したのだと思います。私も同感です。最高の生き方を見つけた以上、何が何でも頑張るしかなかった惣万さん。ブレないところは、確信が深かったからであり、賛同してくれる人が次々に現れたからであると思います。そして、

その思いが岩井孝司さんにも伝わり、2006年1月「宅幼老所 岩井屋」を東御市に開所されました。

その頃、富山型（共生型）デイは全国では千カ所を超えていたということです。

惣万さん創設の富山型デイを参考にした共生型施設は、全国に広がり、岩井屋さんのように、地域に応じて多様な変化を見せているとのこと。「誰も排除しない。」ということは、大変手のかかる利用者さんも受け入れるということです。少しの変化も見逃すことができませんし、介護力も必要ですし、チームワークや、家族の方、地域の方々の協力も欠かせません。利用者さんが安心できる場所としては、利用者さんが知っている場所で、病院が近くにある所が良いでしょう。

そうになると、富山型デイは東御市に於いても、何カ所も必要になって来ると思います。

この先、何カ所も増えて、身近に施設ができれば、近隣の人たちの協力も得られやすくなり、自分が将来お世話になりたい施設となれば、ボランティアにも入りやすくなり、介護力も自然に身についていくのではないかと思います。

岩井屋さんには、ぜひ頑張ってください、東御市に富山型デイを広めていただきたいと思います。

他の業者さんもやってみたいと思うような、利用者さんが安心して楽しく生き活きと生活できるような施設を、皆で力を合わせて創り上げて行きましょう！！